

質の高いデザイン活動による学生教育と周囲への波及効果に関する実践研究

PRACTICAL STUDY ON A EDUCATION THROUGH HIGH QUALITY DESIGN ACTIVITIES AND SPILLOVER EFFECT TO OTHER STUDENTS

.....

田頭 章徳 芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 助教
 見明 暢 芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 准教授
 山本 忠宏 芸術工学部まんが表現学科 助教
 池内 宏行 芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 実習助手
 宮谷 直子 芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 実習助手

Akinori TAGASHIRA Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Assistant Professor
 Nobu MIAKE Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Associate Professor
 Tadahiro YAMAMOTO Department of Manga Media, School of Arts and Design, Assistant Professor
 Hiroyuki IKEUCHI Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Assistant
 Naoko MIYATANI Department of Product and Interior Design, School of Arts and Design, Assistant

.....

要旨

「DESIGN SOIL」のプロジェクトの教育的な効果を明らかにすることを目的とする。また、合わせてワークショップなども開催し、実習授業などに還元できるデザイン教育の有効な方法を発見することも目指す。

2016年4月のミラノでの展示会出展を通じて、複数の作品の商品化が決定するという成果が出た。

同年11月に神戸で展示会を開催したのに合わせて、DESIGN SOILのメンバーや卒業した元メンバーが話し手として自身の体験について語るトークイベントを開催した。参加した学生の声から、学生が直接現地の空気に触れ、自身の言葉で周りの学生に伝えることが最もリアリティのあることとして強く響くということが確認できた。

博物館見学をデザインと直結させるワークショップを通して、デザイン実習などにも応用できる手法を発見できた。

メンバーへのヒアリングから、DESIGN SOILの活動、海外での展示会出展が、参加学生や周囲の学生にも強い刺激を与えることができている、良い影響が循環してきていることが確認できた。

Summary

It aims to clarify the educational effect of "DESIGN SOIL" project. In addition, we also hold workshops and aim to discover effective ways of design education that can be returned to practical lessons.

Through the exhibition in Milan in April, several works were selected as candidates for commercialization.

In conjunction with holding an exhibition in Kobe in November, members of DESIGN SOIL and former members who graduated held a talk event talking about their own experiences. It was confirmed that the words by students who exhibited in the Milan is effective as the most realistic thing for the surrounding students.

Through a workshop linking the museum tour with design practice, I was able to find a method applicable to design practice etc.

From the hearing to the members, the activities of DESIGN SOIL and the participation of the exhibition abroad were able to give strong stimulus to participating students and surrounding students, and it was confirmed that good influence is circulating.

1) 背景と目的

「ゆとり教育」や日本に根強く残る平等教育の影響もあり、日本のデザイン業界でも優秀な学生の人材が不足しており、日本のデザインの活性化の停滞を招いている一因となっている。本研究では、「DESIGN SOIL」のプロジェクトを対象として、参加しているメンバー学生本人に対しての教育効果はもちろん、周囲から注目され、憧れの対象や目標となる「スター」を学生たちの身近なところに育成することが、周囲の学生たちにも影響を与えることを明らかにすることを目的とする。また、合わせてワークショップなども開催し、実習授業などに還元できるデザイン教育の有効な方法を発見することも目指す。

2) 研究方法

研究の対象とする DESIGN SOIL の学生作品を、2016年4月の世界最大のデザインの展示会ミラノサローネ期間中に開催される VENTURA LAMBRATE 2016 に出展する。展示会后、学内での報告会、夏休み頃のワークショップの開催に加えて、2016年秋頃に学生たちが足を運びやすい神戸で展示会を開催する。会期中に DESIGN SOIL のメンバー学生を主体とした討論会を開催し、DESIGN SOIL の活動を通して得られた知見や経験などを還元する。メンバー学生にヒアリングを行い、活動への参加直後や展示会出展後などのタイミングでの意識や姿勢の変化を観察し活動の効果を明らかにする。

3) ミラノでの展示会出展と神戸での展示会開催

2016年4月にミラノで開催された VENTURA LAMBRATE 2016 に出展を果たした。今回は、「Geography (地形)」というテーマを設定し、壁や屋根など、身の回りに存在して人の思考や行動に影響を与える「地形」を家具に落とし込んだ作品や、自然の地形を「機能」を持つものとして室内空間に持ち込んだ作品9点を展示した(写真1)。今年度も、昨年度と同様に各国の大学が展示を行う「VENTURA ACADEMIES」という枠での出展となった(写真2)。

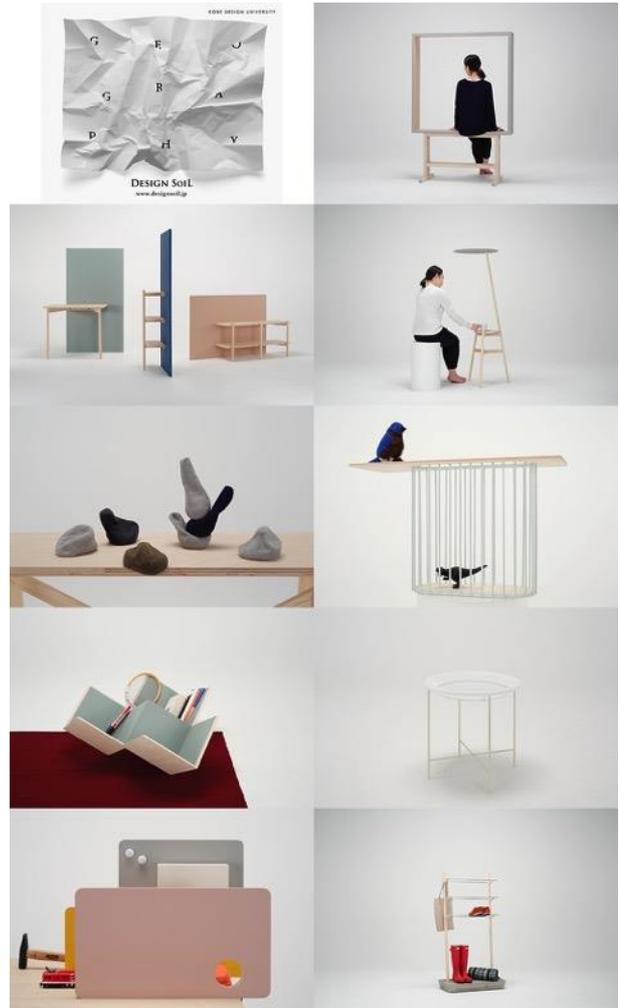


写真1 VENTURA ACADEMIES への出展作品



写真2 VENTURA ACADEMIES での展示風景

5月に神戸芸術工科大学キャンパス内のウッドデッキ広場で報告会を開催し、新メンバーの募集を行った。

11月には神戸煉瓦倉庫再生プロジェクトの一環として、神戸ハーバーランドのインテリアショップ FELICE とカフェ RED BRICK 1898 で展示会を開催した(写真3)。

ミラノで展示した新作と合わせて過去の作品も展示し、展示会に合わせて、DESIGN SOILのメンバーや卒業した元メンバーが話し手として自身の体験について語るトークイベントを開催し、多くの来場者が訪れた(写真4)。参加した学生からは、「身近にいる先輩や同級生の言葉で、世界のデザインの状況や空気感を聞くことができた」、「先生やデザイナーさんから授業で聞くだけだと、遠い世界のことのように感じてしまうが、同じ学生、しかも身近な人から聞くと、とても身近にあることのように感じて、意識を変えるきっかけになったと思う」といった意見が聞かれ、学生が直接現地の空気に触れ、自身の言葉で周りの学生に伝えることが最もリアリティのあることとして強く響くということが確認できた。



写真3 「SAFARI」 展会場



写真4 「SAFARI」 展トークイベント

2016年度ミラノで出展する作品の制作にあたり、テーマ設定から株式会社伊千呂との共同プロジェクトとして活動した。デザインの途中段階から、家具メーカーの方のアドバイスが入ることで、これまでよりも製品然とした作

品が生み出された。

ミラノで展示をした作品の中から、「壁」を容易に移動させられる家具としてデザインした「A WALL」(写真5)と、靴を電線にとまる鳥に見立てて収納する「PERCH」(写真6)が、株式会社伊千呂で商品化することとなり、現在開発を進めている。また、布の袋に砂を入れ自由な形で積んで遊ぶことができるオブジェ「KUMONE」(写真7)が、大阪のインテリアショップのオリジナル商品として商品化を打診され、こちらも開発を進めている。



写真5 商品化検討作品 「A WALL」



写真6 商品化検討作品 「PERCH」



写真7 商品化検討作品 「KUMONE」

4) デザインワークショップ

9月には、DESIGN SOILの学生を連れて大阪の国立民族学博物館の見学を絡めたデザインワークショップを開催した。このワークショップは、数年前に学生を連れて同館を見学した時との教育効果の比較を行うために実施した。前回は、特に指示をせずに自由に見学をさせたのに対し、今回は、「館内で見て興味を持った展示物のデザイン、機能、構造、機構などをもとに、家具やプロダクトをデザインする」という課題を与えて見学させた。結果、学生たちは前回の見学時間よりも1時間以上長い時間をかけて館内を見て回った。各展示品の見方も、さらりと俯瞰して終わるのではなく、形や構造などのディテールを熱心に観察していた。後日発表させたデザイン案も質が高いものが揃っていた。

参加した学生にヒアリングをした結果、「普通に見ただけだったらこんなに集中して見ることはなかった」、「課題が出されたことで、何かを発見しないと、と強く意識した」、「レポート課題だけだったら、レポートに書く内容の情報を得たら、もう十分だ、とってしまったと思う。展示品をヒントにデザイン案を発表しないといけなかったので、もっと面白いものがないか、と積極的に展示品を見て回った」、「意識を変えて展示を見ることで、普通に見ていたら絶対に気付かなかった面白いディテールに気付いたり、展示品の深い意味まで考え、理解できたと思う」といった意見が聞かれた。デザインのヒントを探す、という明確な目的を与えて情報に触れさせることで、学生の意識が変わり、能動的に情報を吸収するきっかけになったと言える。この手法は、博物館の展示に限らず、様々な対象について応用できると考えられるので、実習授業などへの展開を進めていきたい。

5) 学生へのヒアリングと観察の結果

メンバー学生に対して、活動への参加直後と一定期間経過後、展示会出展後、複数年活動を継続した後などのタイミングでのデザインに対する意識や姿勢、向上心、向学心の変化を確認するためのヒアリングと観察を行った。

参加直後は、これまでの教育が影響していると思われる

が、ほとんどの学生が指示待ち、受け身であり、将来の目標設定も「確実に手が届きそうな目標」しか描いていないことが多い。

しかし、一定期間を過ぎた頃には、自分から考えて動くように変化してくる。これは「メンバーになってからの危機感や連帯感が、意識を変えるきっかけになった」という学生の声にも表れている。そして、今年開催したトークイベントのように、大きな目標を持って社会で活躍している卒業したメンバーとの交流によって、自分もそうになりたいという身近で具体的な、大きな目標が描けるようになっていっている。

ミラノでの展示会を経験することで、「ミラノで自分の作品を展示している、という誇りを感じる事ができたし、大学や日本を代表しているという責任感も感じるようになった」という精神面での成長が促される。

そして、複数年活動に参加している学生は、「すごいな、と自分が憧れた先輩のように、後輩に憧れられる先輩に自分自身がならないといけない、という自覚を持つようになった」、「初めてミラノに行った時は、展示するだけで満足したところがあったが、2回目からはもっと良いデザインを生み出して、海外の学生やデザイナーに負けないものを作りたい、と思うようになった」という声からもわかるように、より高い目標を掲げ、それに向かって成長していこうという明確な意識が芽生えてきている。

また、2年や3年からメンバーに応募して参加している学生は、「メンバーの学生を身近で見えて、強い刺激を受けて参加を決めた」と語っている。

このように、DESIGN SOILの活動自体はもちろん、他のメンバーとの交流、海外での挑戦などを経て、参加した学生たちは意識を変え、成長を強く望むようにならなくなっていき、2017年4月には、DESIGN SOILに参加したい、という目標を持って入学してきた新入生もおり、継続的に活動してきた成果が循環してきており、より質の高いデザイン教育に繋がるよう活動の水準を高めていきたい。